



## 2023年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年8月10日

上場会社名 株式会社中央製作所

上場取引所 名

コード番号 6846 URL <http://www.chuo-seisakusho.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 後藤 邦之

問合せ先責任者 (役職名) 総務部長 (氏名) 服部 光生

TEL 052-821-6166

四半期報告書提出予定日 2022年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	753	6.0	64		57		57	
2022年3月期第1四半期	710	19.2	93		70		70	

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 69百万円 ( %) 2022年3月期第1四半期 55百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	74.25	
2022年3月期第1四半期	91.66	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	4,521	2,173	48.1
2022年3月期	4,697	2,258	48.1

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 2,173百万円 2022年3月期 2,258百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		20.00	20.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)		0.00		20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,600	8.0	100		80		80		103.45
通期	3,000	24.5	250		220		230		297.42

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	784,300 株	2022年3月期	784,300 株
期末自己株式数	2023年3月期1Q	10,987 株	2022年3月期	10,987 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	773,313 株	2022年3月期1Q	773,375 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
3. その他	8
(1) 生産実績	8
(2) 受注実績	8
(3) 販売実績	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染防止を目的とした行動制限の緩和による消費の持ち直しがみられましたが、ウクライナ情勢の悪化に伴うエネルギーをはじめとする物価高や、中国でのコロナ感染防止対策の都市封鎖に伴うサプライチェーンの混乱の影響で、電子部品や部材の大幅な納期遅れが発生している状況でありました。また国内製造業における設備投資につきましては一部コロナ禍からの回復基調がみられる一方で、特に大型設備に対する慎重姿勢が色濃くなっております。

このような経済状況の中で、当社グループとしましては、電子部品や部材の調達に注力し操業を堅持しながら、受注・売上の確保に努めてまいりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の受注高は1,085百万円（前年同四半期比22.3%増）、売上高は753百万円（前年同四半期比6.0%増）となりました。損益については、営業損失64百万円（前年同四半期は営業損失93百万円）、経常損失57百万円（前年同四半期は経常損失70百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失57百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失70百万円）の計上となりました。

今後、エネルギーをはじめとする資源価格の高騰や電子部品や部材の供給不足、円安による輸入資材価格の上昇が重石となり設備投資の慎重化が懸念されますが、業績が持ち直している製造業や情報通信業では、中長期の成長につながる投資や次世代自動車やデジタル化需要、DXを活用した合理化・省力化に向けた投資は、回復基調にあると判断しております。こうしたニーズに対する的確な提案営業を行い、受注・売上の確保に努めてまいります。

以下主なセグメントの業績についてご説明申し上げます。なお、当第1四半期連結累計期間より、従来「表面処理装置」「環境機器」として区分しておりました報告セグメントについて「表面処理装置」に統合しております。これは「環境機器」が当社グループの「表面処理装置」に付帯する機器であり、経営管理体制の現状の実態を踏まえ、「表面処理装置」の区分とすることがより適切であると判断したことによるものであります。このため、前第1四半期連結累計期間との比較については、セグメント変更後の数値に組み替えて比較を行っております。

#### （電源機器）

電源機器につきましては、電池業界、自動車関連業界ならびに電子部品業界などを中心に、様々なニーズにお応えすることで受注確保に取り組んでまいりました。その結果、受注高は297百万円（前年同四半期比0.5%増）、売上高は256百万円（前年同四半期比0.2%減）となりました。

今後につきましては、電子部品業界を中心に多様な市場のニーズに応えるべく電源装置のラインアップの拡充を図るとともにカーボンニュートラルに寄与する高効率電源などの製品の更なる改良を進め、受注・売上の確保に努めてまいります。

#### （表面処理装置）

表面処理装置につきましては、自動車関連業界、電子部品業界などを中心に、新規および更新需要の掘り起こしに注力してまいりました。その結果、受注高は493百万円（前年同四半期比50.9%増）、売上高は306百万円（前年同四半期比66.6%増）となりました。

今後につきましては、省力化・省人化ならびにIoT技術を活用した予防保全システムであるCCCS-M（当社グループ商品名）の提案および既存装置の改良・改善提案により受注・売上の確保に努めてまいります。

#### （電気溶接機）

電気溶接機につきましては、国内市場においては自動車関連業界、鋼製家具業界などを中心に、新規及び更新需要の掘り起こしに注力してまいりました。また、海外市場においても海外代理店との連携を密にして電子部品業界を中心とした拡販に努めてまいりましたが、受注高は128百万円（前年同四半期比9.4%減）、売上高は、133百万円（前年同四半期比25.0%減）となりました。

今後につきましては、自動車関連業界および鋼製家具業界を中心に、品質、安全についてのご提案および、改造・メンテナンス等を含めた様々なニーズにお応えし、受注・売上の確保に努めてまいります。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて4.1%減少し3,583百万円となりました。これは、主として仕掛品が162百万円増加したものの、現金及び預金が264百万円減少したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて2.3%減少し938百万円となりました。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて3.7%減少し4,521百万円となりました。

### (負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて3.8%減少し1,879百万円となりました。これは、主として支払手形及び買掛金が58百万円減少したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて3.5%減少し468百万円となりました。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて3.7%減少し2,348百万円となりました。

### (純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて3.8%減少し2,173百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年5月13日に公表いたしました内容を修正しております。詳細につきましては、本日公表の「2023年3月期第2四半期累計期間及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照願います。

記載の業績予想数値につきましては、本資料の発表日現在において当社が入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績は今後様々な要因により業績予想とは異なる可能性があります。実際の業績に与え得る重要な要因には、当社の事業を取り巻く経済環境、市場動向等が考えられます。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,567,123	1,302,872
受取手形及び売掛金	854,078	814,327
電子記録債権	453,887	422,077
商品及び製品	85,118	87,383
仕掛品	583,740	745,848
原材料及び貯蔵品	131,414	141,992
その他	62,007	69,142
貸倒引当金	△300	△300
流動資産合計	3,737,071	3,583,345
固定資産		
有形固定資産	287,679	291,512
無形固定資産	70,268	65,882
投資その他の資産	602,659	581,022
固定資産合計	960,607	938,417
資産合計	4,697,678	4,521,763
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	783,096	724,806
短期借入金	740,000	740,000
未払法人税等	10,630	3,382
その他	420,094	411,638
流動負債合計	1,953,821	1,879,828
固定負債		
長期借入金	40,000	40,000
繰延税金負債	103,688	98,046
退職給付に係る負債	262,038	250,574
その他	79,943	79,943
固定負債合計	485,670	468,564
負債合計	2,439,492	2,348,393
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	503,000	503,000
資本剰余金	225,585	225,585
利益剰余金	1,385,522	1,312,639
自己株式	△16,169	△16,169
株主資本合計	2,097,938	2,025,055
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	149,300	133,950
為替換算調整勘定	10,947	14,363
その他の包括利益累計額合計	160,247	148,314
純資産合計	2,258,185	2,173,369
負債純資産合計	4,697,678	4,521,763

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	710,485	753,451
売上原価	575,505	592,123
売上総利益	134,980	161,327
販売費及び一般管理費	228,822	226,293
営業損失(△)	△93,842	△64,965
営業外収益		
受取利息	67	16
受取配当金	4,750	5,729
為替差益	3	273
補助金収入	19,617	2,500
その他	872	586
営業外収益合計	25,310	9,104
営業外費用		
支払利息	1,612	1,540
その他	343	-
営業外費用合計	1,955	1,540
経常損失(△)	△70,487	△57,401
特別利益		
固定資産売却益	19	9
特別利益合計	19	9
特別損失		
固定資産処分損	-	0
特別損失合計	-	0
税金等調整前四半期純損失(△)	△70,467	△57,391
法人税、住民税及び事業税	469	469
法人税等調整額	△51	△444
法人税等合計	418	24
四半期純損失(△)	△70,886	△57,416
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△70,886	△57,416

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
四半期純損失(△)	△70,886	△57,416
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13,268	△15,349
為替換算調整勘定	1,777	3,416
その他の包括利益合計	15,045	△11,933
四半期包括利益	△55,840	△69,349
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△55,840	△69,349
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

### 3. その他

#### (1) 生産、受注及び販売の状況

当第1四半期連結累計期間より、従来「表面処理装置」「環境機器」として区分しておりました報告セグメントについて「表面処理装置」に統合しております。これは「環境機器」が当社グループの「表面処理装置」に付帯する機器であり、経営管理体制の現状の実態を踏まえ、「表面処理装置」の区分とすることがより適切であると判断したことによるものであります。このため、前第1四半期連結累計期間との比較については、セグメント変更後の数値に組み替えて比較を行っております。

##### (1) 生産実績

当第1四半期連結累計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高 (千円)	前年同四半期比 (%)
電源機器	313,912	△2.2
表面処理装置	413,959	45.2
電気溶接機	193,778	8.2
その他	122,790	89.1
合計	1,044,440	22.9

(注) 1 金額は、販売価格によっております。

##### (2) 受注実績

当第1四半期連結累計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同四半期比 (%)
電源機器	297,716	0.5	424,531	△10.6
表面処理装置	493,139	50.9	768,790	△22.3
電気溶接機	128,113	△9.4	169,288	17.5
その他	166,617	35.5	272,703	112.0
合計	1,085,586	22.3	1,635,314	△5.9

##### (3) 販売実績

当第1四半期連結累計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高 (千円)	前年同四半期比 (%)
電源機器	256,277	△0.2
表面処理装置	306,633	66.6
電気溶接機	133,514	△25.0
その他	57,026	△37.9
合計	753,451	6.0